

## 私の健康

中原 広行

皆さん、明けましておめでとうございます。

さて、今年はどんな年になるか、よい年になりますよう町内こぞって頑張らしましょう。その一つとして、明るい町づくりに全員が協力して花いっぱい（鉢運動）等実施すれば、ほのぼのとした楽しい日々が過ごせるのではないのでしょうか。

この新聞が発行されるころは、七草粥（ごぎょう、はこべら、ほとけのぎ、なずな、すずしろ、せり、すずな）を食し、この一年を息災に過ごすことを祈念したいと思います。

お互いに元気で健康でありたいものです。健康を維持させるためには頭を使い身体を使うことが、一番大切なことだろうと思います。

簡単な方法としてスポーツ、ジョギング、散歩等いろいろありますが私の健康法はゴルフに熱中することです。110を切るために、一週間に一度は練習場に通い、2カ月に一度はお山に出掛けます。お山では人の倍は歩くので、足が丈夫になり、楽しく充実した日々を過ごせています。皆さんも人間性、協調性また友情に欠けることなく、友達を沢山つくり、充実した悔いのない人生を送って頂きたいと思います。

今年は公会堂が出来上がり、子ども達も大変喜んでおります。これからも町内の協力のもとで、明るい町づくり環境づくりにお互いに頑張らしましょう。

## 新年のご挨拶

田中野田体協 代表理事 中尾 信夫

明けましておめでとうございます。日ごろから体協の活動にご協力ご支援を頂きまして有り難うございます。

昨年は小学校の分離とともに田中町内と分離し、独自に歩むことになりました。そして、学区民体育祭（3位）、バレーボール大会（3位）卓球大会（3位）などそれなりの成績を収めることができました。また学区民体育祭での子供達の応援合戦の準備において、子供会育成会の役員の方々、ご父兄の皆様方には大変お世話になりました。今年はいより一層よい成績をあげられるよう頑張りたいと思います。町内において各スポーツの得意な方をご存じでしたら、是非情報を頂きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

また、今年は是非町内の運動会をという話も出ております。過去1年おきに開催されていましたが、資金不足のため近年行われておりません。

今年実施することになれば、皆様のご支援、ご協力を得て、盛大に行いたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

## 新年の抱負

相賀 望

ぼくは、6年間ソフトボールや子供会の行事に参加して、いろいろなことを体験しました。この今まで体験したことを生かして、今年も頑張りたいです。特にぼくたちの6年生は、あと3カ月間で中学生になるので、もうあと少ない3カ月間を一生けんめい頑張りたいです。

これからは、今までのように楽しい行事に参加できないと思うので中学校の勉強や部活動を頑張って、いい年にしたいと思っています。

わが郷土を語る（その23）

中尾 佐之吉

## 難産だった今村の上水道敷設

## 1) はじめに

私たちの地区、元の御津郡今村では昭和7年上水道が完成した。当時今村は純農村の田園地帯であって、飲み水を井戸に頼っていても水質が悪く飲用に適する井戸は1%に過ぎず、河水を濾過して使用する家が21%もあるという状況で、よい飲料水の確保は保健衛生のために村行政のうえでも放置できない課題であった。

幸い、岡山市の上水道の2期拡張工事で村境まで水道が敷設されたし、市もこの水道水を今村に供与してもらえる見込みも得られたので、にわか上水道敷設実現の可能性が高まり、遂に昭和4年、今村は9万7千円の予算を計上し村議会もこれを議決した。そして事は順調に運ぶかに見えたがそうはならなかった。この後のいきさつを述べる前に、同じように難航した岡山市の上水道建設のことにもふれてみたい。

## 2) 着工までに難航した岡山市の上水道建設

岡山市の上水道は明治38年完成している。しかし、着工したのは明治36年である。それ以前は岡山市でも飲料水は井戸水だったし、その水質は、岡山市史によるとつぎのような状況であった。「当時における市内の井水検査総数2207に対し飲用に適するもの僅かに50にして他は概ね濾過を要するものなり」と。また、当時はコレラ・赤痢・腸チフスなどの伝染病が多発していた。さらに、明治33年開校した第六高等学校誘致に上水道敷設が条件となっていることもあって、（国の補助の内諾も得ていた）上水道敷設計画は市議会もすんなり通過していたのである。

ところが、起債の予定が思うようになかった。そして景気は悪くなる。しかもその時期、市議員改選がおこなわれ新議員が反対する。などでその執行があやぶまれていたところ、たまたま、明治35年にコレラが大流行、岡山市だけでも、患者数982死者705というありさま。…ときの県知事も、岡山市への水道設置補助金10万円を県議会と大げんかをして押し通すなど県の支援もえて、さしも難航していた水道問題が一挙に解決したという。（参考資料、岡山市史・岡長平著「岡山風土記」・蓬郷 巖著「岡山県庁ものがたり」）

## 3) 話を今村にもどす

スムーズに進むかにもえた今村の上水道の建設も、村民から見れば一戸

あたりおよそ200円の負担となる。目下大不況のおりから到底このような多額の負担は堪えられないと昭和4年11月村民284名の連名で村長へ陳情し、また同月村民大会が催され反対決議がなされた。さらに翌5年7月には、村会議員も総辞職するに及んだ。

事態を憂慮した清水長郷代議士・粕山八郎治県議・佐藤芳田村長・則武白石村長らが調停斡旋に乗り出され、昭和6年3月遂に反対派と妥協成立した。その条件は、事業費を6万7千円に減額し、その資金の大部分は政府から20年償還の低利融資をうける、ということであった。

貝原助役は上京して内務省に融資の交渉をしたが、緊縮財政を理由に容易に応じてもらえなかった。だが、助役は空手では傷れないと16日間もねばって、6万5千円の融資をものにしたという。（上京前、黒々としていた青年助役の頭髪が、傷るときには銀髪となっていたそうだ）

かくして、昭和6年4月着工、翌7年12月懸案の上水道が完成したのである。（今村上水道については、「今村史」・佐藤 勲著「今村上水道敷設騒動略誌」などを参考に書かしてもらった。）

## 4) むすび

「今村史」は、上水道に関する記事の最後を次のように結んでいる。

「毎年必ず発生していた伝染病患者は上水道布設以来殆ど其の影を見ぬ。之は正しく上水道のお蔭であって二十年後の今日その有難さがしみじみ感ぜられると同時に、上水道布設に尽力して下さった郷土の先賢に心から感謝しなければならぬ。」と……

動統20年、信念の人長瀬芳太郎村長（当時66歳）は、昭和7年1月上水道着工で任務終われりとしてか任期満了直前に退任しておられる。

上水道問題で議会から辞職勧告まで出された当時の岡山市長も議会の場で「懸案通過の上は、お約束どおり市長の椅子を去ります」と明治35年4月いさぎよく辞任している。上水道敷設事業は、市でも、村でも当時としては執行者が職責をかけた大事業であり、且つ難事業だったことがわかる。

なお、申し添えておくと、長瀬村長が大字田中在住の方であったこともあろうが、この上水道建設反対運動には田中の村民は参加していないし、医師の原 正雄先生（原 一郎さんの祖父）は医師の立場で、また、水道委員であった和氣政治さん（和氣次男さんの祖父）も推進派として、共に陰に陽に長瀬村長を支援していたそうである。（佐藤 勲氏談）

## あとがき

顧みますと、昨年は日本の政治、経済は一体何処へ行くのか心配でした。特に政治面は混迷の感が深かったように思います。又ピストル事件やいじめなどが横行し、根強い社会不安がありました。その上に夏には40度近い猛暑が続き、水不足は殊に深刻で多くの人々を悩ませました。

これでもかと言わんばかりに北日本を中心に地震が追い打ちをかけた何とも言い難い受難の年であったように思います。人災と天災が一度にきた感もあります。

明けて今年は亥の年、一転して平和で住みよい年になるよう心から念願しています。本年も皆様宜しくお願い致します。

原・和氣